

ベトナムの工業団地と経済特区 | 持続可能な成長を目指すインフラの進化

2025年1月11日 作成

カテゴリ ベトナム経済 経済動向

ベトナムの工業団地と経済特区 | 持続可能な成長を目指すインフラの進化

ベトナムの工業団地（KCN）や経済区（KKT）のインフラと利便性は、投資家を引き付ける重要な要素である。市場調査会社によると、ベトナムの工業成長の見通しは明るく、戦略的な立地、インフラの発展、そして環境に配慮した工業団地の需要が高まっていることが寄与している。

インフラの強化

ベトナムは交通インフラの開発に力を入れており、国内の KCN における交通網は設計基準を満たしている。多くの KCN は主要道路に隣接しており、物流が容易である。特に、北南高速道路や沿岸道路が整備されることで、地域経済の発展が促進されている。また、KCN は住民エリアに近接しているため、投資家や労働者にとって利便性が高い。KCN では国の電力網を利用しつつ、太陽光や風力など再生可能エネルギーも取り入れ始めている。約 50% の KCN が屋根置き太陽光発電を導入しており、環境に優しい生産基準を目指す動きが見られる。さらに、スーパーマーケットや病院などのサービス施設も KCN 近くに配置されており、労働者の日常生活を支える環境が整いつつある。

環境に配慮した工業団地の重要性

KPMG の調査によれば、外国直接投資（FDI）企業は、環境基準を重視しており、グリーン基準を満たす KCN への投資を優先している。ベトナム政府は、2050 年にはネットゼロ排出を達成する目標を掲げている。このため、グリーン KCN は技術支援や優遇措置が受けられるため、伝統的な KCN よりも競争力がある。しかし、EIP（エコインダストリアルパーク）の設立には法的な課題や高い初期投資が必要であり、多くの企業が資金不足から進展が遅れている。これに対処するためには、明確な法規制や財政メカニズムの整備が求められ、持続可能な技術開発への投資も必要である。

結論

ベトナムは今後もグリーン工業団地の開発を進める必要があり、それによって持続可能な成長と経済発展を実現することが期待されている。環境問題への対応と投資家誘致を両立させることで、国際的な競争力を高めることができるだろう。

以上